

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりが、確かな学力と豊かな人間性を備え、高い志をもって、伸び伸びと主体的に高校生活を送ることのできる学校をめざします。

- 1 学業を第一として捉え、知識や技能の習得とともに、考える力、学ぶ意欲を育みます。
- 2 他者と協働する様々な活動を通して、主体性、協調性、自律性、社会に貢献する力を育みます。
- 3 自らの意思で行動し、夢の実現に向かって努力を継続する力を育みます。

2 中期的目標

1 学力向上と進路実現

(1) 教科指導を充実させ、生徒の学力を向上させる。

- ア 学習に向かう意識を向上させるとともに、授業見学、校内研修、授業アンケート等により継続的な授業改善を図り、生徒の学力向上に結びつける。
- イ 「魅力的な授業・わかる授業」を確実なものとし、さらに一歩進んで「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。

令和2年度 学校経営推進事業『さつき「授業力向上」プロジェクト ～進路実現のための素養（考える力、学ぶ意欲）を育む～』により、普通教室にプロジェクタ1台、およびロール式スクリーン等(総額100数万円)を設置し、授業の効率化、思考判断・成果発表等の時間確保による「主体的に学びに向かう態度の育成」を図る。

(2) 自学自習する力を育む。

- ア 家庭学習や補習・講習等の授業外学習に取り組む力を育成する。
- イ 読書活動を推進するとともに、様々な資格取得の機会を提供し、前向きに取り組む意欲を向上させる。

(3) 進路指導の充実に取り組む。

- ア 3年間を見通した系統的・継続的な進路指導を実践し、多様な進路希望に丁寧に対応する。
- イ 模擬試験や学びの基礎診断等を活用し、生徒の学力等の推移を把握して、時機を捉えた進路指導を行う。

授業満足度 R5年度には85%以上を維持 (R1 88% R2 86.6% R3 90.5%)
[強い満足度60%]

授業以外の学習1時間以上 R5年度には60%をめざす (R1 30% R2 28.9% R3 32%)

進路指導に対する肯定率 R5年度には85%以上を維持 (R1 88% R2 88.6% R3 90.6%)

[学力診断テストにおける学力評価(2年次のCゾーン以上の割合) R2 55%→R3 79%]
[難関・中堅私立大学への進学者数 16名](R4.1現在)

2 豊かな人間性の涵養

(1) 学校・地域において他者と協働する様々な活動を通じて人間性を育む。

- ア 体育祭、文化祭等の学校行事や部活動を通して、生徒に考え、行動させながら、主体性、協調性、自律性を育む。
- イ 地域の奉仕活動・交流活動、その他様々な発表の場面に積極的に参加させ、社会に貢献する力や自己肯定感を育む。

(2) 学校生活における規律を身に付けさせる。

- ア 全校的で効果的な生活指導・遅刻指導を行い、時間・規則を守る意識を育む。
- イ 保護者の協力を得ながら交通安全指導を行う。
- ウ 清掃指導を徹底し、環境美化に務めるとともに、落ち着いた学習環境を維持する。

※ 部活動加入率 R5年度には70%をめざす (R1 60% R2 65.5% R3 62.8%)

遅刻者数 R5年度には1000人をめざす (R1 1170人 R2 1465人 R3 1613人)

(3) 総合的に人権教育を推進することにより、安全・安心な学びの場を維持するとともに、差別やいじめを許さない人間性を育む。

- ア 教科科目の授業や総合的な探究の時間・HR等、すべての教育活動において協同的な学びの場を設定し、他者を思いやる心や差別・いじめを許さない心の育成を図る。
- イ 3年間を見通した人権教育を計画し、すべての人が、等しく同じ人権を有しており、多様な「個性」を持っていることを理解させる。

3 活力ある学校づくり

(1) 専門コース等の教育内容を一層充実させる。

- ア 国際交流の推進により、英語でのコミュニケーション能力の向上を図るとともに、国際的な視野を育む。
- イ 英語専門コースでは、英語力を鍛え、英語を専門的に研究・活用する学部・学科への進学の実現をめざす。
- ウ 理数専門コースでは、科学的な思考に基づいて問題解決にあたる力を身に付けさせるとともに、理系学部・学科への進学の実現をめざす。

(2) 新たな教育課題に対して全校的に取り組む。

- ア 新しい学習指導要領及び大学入学者選抜等の実施に関して、教科や分掌の垣根を越えて学校として取組みを進めていく。
- イ 業務の統合や会議の効率化などを図り、教職員の働き方改革を進めていく。

(3) 学校の教育活動の積極的な情報発信を行う。

- ア 学校説明会、外部説明会、中学校訪問等の広報を充実させる。

※ 学校説明会理解度 R5年度には90%以上を維持 (H30 98%、R1 99%、R2 99.3% R3 99.4%)

- イ Webページ、阜メール等により、学校情報を積極的に伝える。

- ウ 危機管理体制を充実させる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <p>・教員「学習指導方法の工夫・改善」90% (92%) と授業改善が計られた。「講習・補習の実施」は、78% (87%) と減じたが、必要に応じてICTを活用した90% (86%) と年々増加しており、クラウド掲示板に資料・課題を掲載する等学習支援に工</p>	<p>第1回学校運営協議会 7/20(水) 13:30～15:00</p> <p>○スクール・ミッションの策定について</p> <p>・生徒がどのような進路先を希望し、実現させるのか、今後の出口戦略も含め、阜が丘の特色を活かす方向性を明確にしていくべき</p>

府立北かわち阜が丘高等学校

夫が見られた。昨年度同様、Web 掲示板では、講座毎に、授業準備や課題連絡等を配信するとともに、緊急連絡時にも活用し、対応策等を周知することができた。

・生徒「授業以外の勉強時間 1 時間以上」29%(32%)に対し、保護者家庭での学校のことについてよく話をする 73%(74%)、「家庭でよく学習している」43%(47%)と昨年並みの肯定回答を得られており、定期的な課題配信・回収により、学習習慣を定着させられるよう、指導を継続する。

【進路指導】

・進路指導への肯定的回答は、生徒 91%(91%)、保護者 79%(80%)、教員 79%(84%)と昨年並みの評価を得た。とりわけ、生徒の肯定的回答が高く、引き続き、生徒の多様な進路実現にむけ、親身な指導に努めたい。

【学校生活】

・体育祭・文化祭は例年実施していた時期に開催した。(3年演劇コンクールを除き、内部公開のみ)としたため、生徒「学校行事の工夫」77%(77%)、「自治会活動への参加」77%(75%)については、昨年同様の結果を得た。

今後、コロナ感染対処策の変更に伴い、生徒自治会役員と共に従来の実施形態への回帰を探る等、生徒の自主性を育む取組に努めたい。

【保護者対応】

・保護者「相談への適切な対応」は92%(81%)と前年度比 10 ポイント増。「本校の教育は全般的に満足」85%(80%)と高い評価を得た。引続き、家庭との連携を密に、丁寧な対応に努める。

- ・今後 10 年間、教員・生徒も入替る中、学校経営計画は、都度更新すべき。
- ・地域住民の 1 人として、地元活性化に繋がる活動を頑張って欲しい。
- ・近年の高倍率、その理由そのものが、阜らしさでは？その要因を把握し、そこを阜の強みにしていくのがいいのではないか。

○新教育課程の実施(新入生)について

- ・様々な場面で生徒達の学習取組を評価している。教員は、日々忙しいと実感している。観点別に評価し、それぞれの観点について成績通知を行っている。教員は、使用教材や授業展開の工夫等、情報共有・意見交換の場を設ける等、教員自身の指導力向上に努めている。

○生徒指導(中学から高校への接続)について

- ・阜が丘で何をしたいのか、(強い志願理由)を持っておいてもらいたい。

第 2 回学校運営協議会 令和 4 年 11 月 25 日(金) 15:40~16:40

- ・スクールミッションの議論過程は、よくわかった。阜が丘の特徴は何か、いうことと言えば専門コースを挙げている点。立地条件(3市(寝屋川市・枚方市・交野市)の境にある学校)から地域の教育力をより活用しながら進められるとよいのではないか。
- ・高校レベルにおけるリベラル・アーツ(liberal arts)科目に関するリテラシーを最大限高めることが望まれる。そのための「鍵」となるのが、非認知能力に代表されるソフト・スキルの涵養と、基本的な生活習慣、および、学習習慣の確立であると考え。スクール・ミッションやスクール・ポリシーにおいて、地域社会やグローバルコミュニティとの関係性の中で教育を実践・推進することが示されていることは評価できる。
- ・学校教育自己診断(教員)の中で、『阜が丘の強みがない』と回答している教員が複数名いた。その点は、教員間で共通認識を持てるよう、意見交流の機会を引続き持つ必要があるのでは。これからの社会では IQ にとらわれない非認知能力の育成が問われている。見えないもの、数値に現れない普遍的な、幹となる部分を、学校説明会やHP等で広く周知すべきではないか。
- ・この数年、志願者が増えている。寝屋川学・枚方学のような地域学・この地域ならではの事を学べるのか、阜が丘なら何が学べるのか、そういった根本になることを深めていってほしい。
- ・学校評価については、学校関係者だけでなく外部の方にも学校に入ってもらうことも検討しては。保育園でも公開保育や寝屋川市の担当課職員にも見に来てもらっている。

第 3 回学校運営協議会 令和 5 年 2 月 15 日(水) 15:40~17:00 (Web 参加を含む)

- ・家庭学習時間については、自立的に学習する、そのきっかけとして、2年生の第 1 志望宣言、目標設定、その目標実現に向けての取組を、自身でどのように PDCA を回すことができるか？そこへの働きかけが重要であると考え。
- ・登下校時指導の一環として、交通安全のビデオ作成をしたことは、交通ルールを守るよう啓発活動に繋がるいい取り組みだ。その動画を色々な場面で、中学生等にも配信できればより良いと思う。
- ・図書委員を交え、新書購入を行ったとの報告があった。今後、デジタル図書を活用することで、読書する割合は増えるのでは。図書室の利用より、どれだけ、本に触れさせるかの視点も大切にしてもらいたい
- ・働き方改革について、週 80 時間を超える教員が一定数いると思われるが実態は如何に？月 80 時間を超える教員が一定数いる。部活指導や日々の提出物の確認、教材の準備等に追われている状況。観点別学習評価では、それぞれの活動において評価を見取ることがあり、そのパフォーマンスを評価するためのルーブリック(評価基準)の策定等に追われている感がある。一方で、端末を活用し情報共有することで、資料の印刷・配布等の準備に要する時間を縮減をしているが、一部の時間短縮に過ぎないのが現状。
- ・体育を担当している。これまでの評価と異なり、生徒の動きを観察し、それぞれの取組に対する評価指標や課題設定を設定し、どのように評価するかを日々奮闘している状況。場合によっては、取組み状況を動画に撮影し、振り返るなどを行っており、指導と評価に要する時間が増えている。
- ・職場の近くの中学校でも深夜遅くまで校舎に電気が灯っている。先生方が部活動や学習活動、その他多くの業務に携わっておられ、そのような時間帯まで業務されているのか心配。保育者すべてがジェネラリストであるように認識されているが、短大(2年)もしくは4年生大学を卒業し保育の職に就く者もいる。多くの保育者が、リアリティショックを受けている。通常の業務に加えて、保護者対応等、本来の業務の周辺業務については、そのスペシャリストが対応したり、ノンコンタクトタイム(代替職員を配置し、その時間帯には保育者の本来業務を携わる時間とする)を運用している現場もある。一朝一夕に変えられるものではないが、・・・。
- ・先生方が輝いていないと、その姿をみている生徒達に、働き甲斐や働くことへの憧れ等を感じさせられません。
- ・生徒自治会役員やクラブ員が自主的に校区の児童を見守ってくれていることはありがたい。SGS(スクール・ガード・サポーター)の取組は、当初、同じ方面に帰宅する子どもたち(児童・生徒)と一緒に帰宅するような取組から始まったもの。地域に関わる子ども達が、この活動を通じて、高校生への憧れを抱く等の取組になればいいと考えている。地域協議会は、小学校区(三井小学校・宇谷小学校)に改編されるが、引続き、寝屋川第 10 中学校の校区協議会として SGS の取組については継続されるので、引続き、見守ってもらいたい。
- ・令和 5 年度計画のめざす学校像の中に「自ら考え社会貢献に繋がる課題解決に向け、行動できる力」とあるが、(先程紹介のあった)課外活動によって培われる力のように見受けられ、正規の教育活動、計画の中には見受けられないように感じる。その辺りに、違和感を感じる。また、家庭学習時間については、毎年話題になっているが改善されていない。学校の勉強以外の時間を問うているのか、授業の中で各教員がアドバイスをする等、抜本的な取組が必要なのは。
- ・社会貢献に繋がる課題の解決について、先日、理数アドバンスコース(生物選択)生徒が、授業時に探究発表を行った。その発表には、物理選択生徒も(オーディエンスとして)視聴し、質疑を交わす場面を設定した。今後、自ら調べたことを発表し、質疑を交わすことで理解や見識を深める学習活動が増え、そのような活動を通じて、課題の解決法を探る過程で培われる力と考えている。

府立北かわち阜が丘高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 学力向上と進路実現	(1) 教科指導の充実 ア ICTを活用し継続的な授業改善 イ「主体的・対話的で深い学び」の実現	ア・授業力向上委員会が目標等を設定する。 ・日常的に授業見学を行い、助言を積み重ねることにより、相互の授業改善に繋げる。 ・授業理解度の把握、毎時の振返、個別の課題設定等、授業改善に繋げるために1人1台端末の活用を工夫する。 イ・「主体的・対話的で深い学び」を深める取組を校内で共有するために、研究授業を開催し、研究協議を行う。また、「生徒の主体的に学びに向かう態度の育成」に関して、パフォーマンス課題の設定、評価の基準・方法等、各教科の実践状況を授業力向上委員会で共有し、他の教員に配信する。	ア・授業満足度 85%以上維持 [90.5%] ・授業見学 2.5回/人 [4.57回/人]	ア・授業満足度(生徒による授業アンケート) (◎) 91.4%(前期)、92.3%(後期)、年間通じて91.85%。とりわけ、目標・重点等の説明及び思考・表現の取組時間確保の肯定評価が高く、授業改善が見られた。 ・授業見学回数 2.91回/人 相互授業見学週間(11/15～11/18)を設け、各自2回以上見学することとした。 イ 「学習形態等の工夫を行った」90.0%(◎) 端末を活用し、知識確認の小テストや自分の考えをまとめて他の生徒と共有する場面も増え、教材提示・課題配信回収等の授業改善が図られた。 また、各教科の取組をクラウドストレージに掲載し、情報を共有する仕組みを構築・運用した。
	(2) 自学自習する力の育成 ア 学習に向かう意識の向上 イ 基礎・基本の学び直しの場づくり ウ 読書活動の推進 エ 資格取得の奨励	ア・適切に宿題・課題を出し(特に各教科で課題のオンライン配信を2(回/学期)以上)、取り組ませることにより、家庭学習を習慣付ける。 ・個別の課題対応としての補習、進路実現に向けた講習を実施する。 イ・図書室内自習スペースおよび自習室等を整備し、自学自習できる環境を充実させる。 ウ・授業での活用や図書委員会の活動により、図書館に対する親近感を向上させる。 エ・各種検定の積極的な受験を促し、授業や講習を通して合格のための力を付ける。	ア・授業以外の学習1時間以上の生徒 40% [32%] ・講習・補習の延参加者 3000人以上 [3175人] イ・自習室活用 のべ人数 200人以上 [350人] ウ・図書館利用率 30%以上 [29%] <u>読書マラソン参加生徒 60名以上</u> エ・英検受験者数 80人以上 維持 [70人]	ア・授業以外の学習1時間以上 29% (△) 宿題・課題の配信や授業で提示したスライド教材をクラウド掲示板に掲載する等、各教科の工夫が十分に反映されていない。 ・講習・補習の延参加者 2695人 (△) (補習 1848人・講習 847人) イ 放課後1～3名/日 常時活用。年間通じて346名が利用し進路実現に繋がった (○) ウ 図書館利用率 36.4% 利用状況は学年進行とともに減じる状況。読書マラソンを実施できなかったが、図書委員(10名)による選書会を開催する等、読書啓発の活動を行った。 (△) エ 英語検定 (○) 第1回 25名、第2回 22名、第3回 15名 計62名が受験。受検人数は減少したが、2級の合格者は、6名(R3:5名より増)。それぞれの内訳は以下の通り 第1回は3級2名中2名合格、準2級10名中1名合格、2級13名中5名合格。 第2回は3級3名中2名合格、準2級11名中3名、2級8名中1名合格。 第3回は、3級2名中2名、準2級7名中4名、2級6名中1名 計7名合格。 別途、2年生全員に英語運用能力を高めるために GTEC 受検を計画し、授業の一貫として4技能の向上に取り組んだ。
	(3) 進路指導の充実 ア 3年間を見通した進路指導 イ 模擬試験や学力生活実態調査の活用	ア・LP(総合的な探究の時間)の充実 1年次「職業理解」2年次「上級学校理解」3年次「進路実現」の目標に沿い、高校3年次に成人を迎える生徒に、入学直後から順次、その素養を身につけさせると共に、成人として責任のある選択ができるよう、3年間を見通した計画・プログラム(LP計画)の検討を行う。 イ・進路実現に向け、段階的な目標を明示することで、学習意欲を向上させ、具体的に取組ませる。 実力テストの前後にガイダンス・結果の振り返り(分析会)を設定し、自らの学習計画を策定する等、生徒が自己実現できるよう支援の仕組みを構築する。また、個別の模擬試験においても同様に実施前後にガイダンス・分析会を開催し指導に生かす。	ア・進路指導に対する肯定率 85%以上を維持 [91%] イ・学力診断テストにおける学力評価(2年次のCゾーン以上の割合)55% [76.9%] ・難関・中堅私立大学への進学者数 35名以上 [16名]	ア 学校教育自己診断(生徒)における「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」に対する肯定回答 91% (◎) 社会労務士・弁護士・起業家・大学院生を招き、社会人講話や探究発表での助言等外部講師から話を聞く機会を設け、新たな知見や進路意識を明確にした。 イ 学力診断テストにおける学力評価(2年次2学期)Cゾーン以上の割合 77.4%(◎) ・難関・中堅私立大学への進学者数 6名 高大連携を行っている大学は、のべ16名が合格した。難関・中堅私立大学へ受験する生徒が一定いる中で、志望校への進路実現に繋がっておらず、生徒の学力向上の取組を強化する必要がある。 (△)

府立北かわち阜が丘高等学校

2 豊かな 人間性 の涵養	<p>(1) 協働的活動を通じた人間性の育み</p> <p>ア 体育祭や文化祭等の学校行事の充実</p> <p>イ 部活動の活性化</p> <p>ウ 地域貢献</p>	<p>ア・体育祭や文化祭、HR 活動を通して、リーダーを中心に生徒に考え行動させることにより、生徒の主体性を育む。</p> <p>イ・新入生への入部の勧誘に一層取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間部活動を継続できるよう、充実した指導や丁寧な対応で生徒をサポートする。 ・部員による校内あいさつ運動を奨励し、学校の活性化に繋げる。 <p>ウ・地域の奉仕活動及び交流活動（地域清掃、SGS（スケルトンサーカス）、中学生との部活動交流、地域活動への出場等）により、社会に貢献する力を育む。</p>	<p>ア・体育祭満足度 90%以上 [83.5%]</p> <p>文化祭満足度 85%以上 [62.0%]</p> <p>イ・部活動加入率 65% [62.8%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内あいさつ運動への参加延部活数 60 以上 [-] <p>ウ・地域の奉仕活動や交流活動への参加者数 800 人以上 [95 人]</p>	<p>ア・体育祭は、3年前の日程に戻して実施。満足度(肯定的回答)は、86.4%。昨年度より3ポイント改善されたが、「どちらとも言えない」(約10%)の改善が課題。文化祭は、昨年同様分散登校での展示映像(1, 2年)演劇コンクール(3年)を実施。肯定的回答は80.8%であり、生徒達は、他学年との交流や外部公開を希望しており、次年度以降の実施計画に反映させる必要がある。(△)</p> <p>イ・部員加入率 63.5%(前年度より0.5ポイント改善)。前年度より増加傾向にあり、とりわけ1年生は67.2%が加入した。継続的な活用となるようサポートする。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内あいさつ運動への参加延べクラブ数 約 24 部 生徒自治会役員 のべ20 日 (△) <p>ウ・中学生の部活体験は、学校説明会以外に3つのクラブが開催し、53 中学校から632名の中学生が体験した。また、SGSに、生徒自治会及び男子バレーボール部員が5, 11, 12, 2月に、それぞれ参加し、地元の小学生の登校風景を見守った。(2つの小学校にのべ42名が訪問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園・学童保育での表敬演奏 吹奏楽(6月) 園児・教職員 100名 軽音楽部(1月) 小学生他 74名 週休日(代休等)に小学校等に出向き演奏を披露した。 ・また、寝屋川支援学校との交流事業(7/15)には、27名が参加し、各校の出し物を通じて交流を深めることができた。 ・地元の寝屋川団地自治会が実施された地域清掃活動に、生徒自治会生徒(顧問含む)10名が参加、地域農園での芋ほり(食育活動)には、生徒・教員等20名が参加し、地産地消を体感した。 <p>地域交流活動延べ参加者 898名(◎)</p>
	<p>(2) 学校生活における規律の確立</p> <p>ア 遅刻指導の取組み</p> <p>イ 保護者と連携した交通安全指導</p> <p>ウ 清掃指導の徹底</p>	<p>ア・生徒の規範意識の醸成に努め、落ち着いた校内環境を維持する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻防止週間の設定、毎朝の校門指導等、全校体制で遅刻指導に取り組む。 <p>イ・保護者と連携した交通安全指導及び意見交換会を開催し、自転車通学における安全確保と交通マナーの改善へ繋げていく。</p> <p>ウ・毎日の掃除を徹底し、学習環境を整える。学校全体で美化意識を高めるために、(生徒)保健委員が点検する清掃徹底週間を設定する。</p>	<p>ア・遅刻者数 前年度10%減少 [1613人(R3)]</p> <p>イ・交通安全指導・意見交換会を年3回実施し、保護者に情報を提示する機会を設ける。 [1回]</p> <p>ウ・学校教育自己診断(教員)における「清掃が行き届いている」の肯定的評価50% [41%]</p> <p>学校教育自己診断(生徒)(校内美化に関する項目を新設)における肯定的評価50% [未実施]</p>	<p>ア・生徒指導週間を毎月設定し、登校時指導を実施した。服装指導(正しく着こなす)等の指導に加え、遅刻については、担任・学年生徒指導担当等の指導を段階的に行うことで、一定の抑止に繋げることができた。年間の遅刻数合計は1430回 (○)</p> <p>イ・保護者を交えた交通安全指導3回(登校時2回, 下校時1回)実施。道路交通法改正に係る情報を提供する等、学校での指導状況を説明し、参加された保護者からは取組の評価を得た。(○)</p> <p>ウ・「清掃が行き届いている」の肯定的評価(教員)は、35%と前年を6ポイント下回った。保護者による回答では、79%が肯定評価をしており、懇談等来校時に重点的に清掃している実態が評価された。生徒による回答(美化に関する項目を新設できておらず)の評価なし (△)</p>
	<p>(3) 総合的な人権教育の推進</p>	<p>ア 教科科目の授業や総合的な探究の時間・HR等、すべての教育活動において協働的な学びの場を設定し、他者を思いやる心や差別・いじめを許さない心の育成を図る。</p> <p>イ 3年間を見通した人権教育を計画し、すべての人が、等しく同じ人権を有しており、多様な「個性」を持っていることを理解させる。</p> <p>ウ クラス活動、部活動等の各種活動を通じて、生徒の状況(ヤングケアラー等)を把握し、それらの状況を把握するために生徒相談委員会を定期的に開催する。また、『子どもとしての権利・人権』擁護するために外部関係機関と連携し対処する。</p>	<p>学校教育自己診断(生徒)における以下の項目の肯定的回答</p> <p>『命の大切さを学ぶ機会』80%以上 [81%]</p> <p>『人権について学ぶ機会』80%以上 [81%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒相談委員会を概ね毎週開催する。(考査期間を除く25回/年以上)(生徒支援委員会との連携) ・学校教育自己診断(生徒)における『担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる』の肯定的回答70%以上 [68%] 	<p>ア 学校教育自己診断(生徒)『命の大切さを学ぶ機会』85% (○)</p> <p>イ『人権について学ぶ機会』87% (○)</p> <p>人権教育の狙い等を明確にし、取り組んだ成果が各学年ともに前年度より肯定的回答が増えている要因と考えられる。一方で、教員の意識は、『いじめ対応(校内体制)』59%『保護者対応』78%と組織的な取組について、今後の課題が見られた。</p> <p>ウ 生徒相談委員会は行事等の関係上、隔週で20回開催した。(○)保健室での生徒相談や学年から配慮事項等、情報を共有し、必要に応じてスクールカウンセラーとの面談を計画・実施した。</p> <p>『担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる』の肯定的回答73%と前年比較5ポイント改善。(○)</p>

府立北かわち阜が丘高等学校

3 活力ある学校づくり	(1) 専門コース等の教育内容の充実 ア 国際交流の推進 イ 英語コースの充実 ウ 理数コースの充実	ア・海外から留学中の大学生等の授業参加 または、テレビ会議により海外の学校との交流を2回/年以上実施する。 イ・英語4技能を一層伸ばす指導 ・英語検定対策 ・Gtec(1,2年英語)を取り入れ、4技能の向上を図る ウ・習熟度を踏まえた課題、講習の充実 ・実験を通じた科学的探究能力・プレゼン力の育成 ・アドバンスコース生による探究発表	ア・留学生等を1人以上招く または海外の学校とのテレビ会議交流を2回/年以上 [3回] イ・英検合格 2級 2人以上 準2級 4人以上 (R3 2級 5名 準2級 9名) ウ・学校説明会での模擬授業で生徒が中学生を指導する。	ア オーストラリアノーザンテリトリー州にあるセントラリアンカレッジの中高生と本校英語アドバンスコース生との交流 10/24 2年 英語理解(コース生17名) 11/28 2年 英語理解(コース生17名) 自己紹介やお互いの国のおすすめスポットを紹介し合う等、交流時間は短かったがしっかりと伝える準備を行えた。(○) イ 英語検定 2級 7名 準2級 8名 合格 (◎) ウ 学校説明会では、理数アドバンスコース生が顕微鏡観察時のサポートし、中学生(9名)を指導した。(○)
	(2) 新しい教育課題への取組み ア 新学習指導要領や大学入学者選抜への対応 イ 働き方改革	ア・(週30時間に減じた)新教育課程の指導と評価、総合的な探究の時間等、生徒の探究力の育成を図る。 ・就職指導、進学指導等の個別のガイダンスや説明会等を開催する。 イ・掲示板の活用により、職員会議のペーパーレス、報告に要する時間の短縮を図る。 ・分掌の再編(令和5年度に向け、令和4年プレ運用)情報部の設置	ア・教育課程検討の進捗状況 授業力向上委員会 4回以上の開催(観点別学習評価の実施。学びに向かう態度の育成・評価の実践状況の共有を図る等) [10回] ・学校教育自己診断(生徒(3年))の進路指導に対する肯定率85%以上 イ・掲示板活用数 200件以上 [263件]	ア 観点別学習評価に係る内規の見直し、授業力向上のための授業公開週間の設定等、授業力向上委員会を7回開催した。(○) 学校教育自己診断(生徒(3年))の進路指導に対する肯定評価 89%(○) イ・掲示板活用数 160件 (○) 校務に係る諸連絡は、掲示板を活用し行った。授業に関わる事例発表や連絡は、クラウドストレージを活用し、ネットワークに応じた伝達方法を併用した。確実な伝達手段として、クラウドの共有ストレージと既存の掲示板の運用方法については整理する必要がある。
	(3) 教育活動の積極的な情報発信 ア 広報の充実 イ Webページ等による情報発信 ウ 危機管理	ア・令和2年度に改定した学校パンフレット作成過程を教員中心から生徒も交えた取組に変更。在校生のメッセージ等、学校説明会、外部説明会、中学校訪問等の更なる充実を図る。 イ・Webページ、携帯連絡網等により、学校の情報を保護者や地域に積極的に発信する。 ウ 危機管理体制の適切な運用・持続性のある運用。 ・運営委員のメーリングリスト構築(SNS) ・各クラス・学年の電子掲示板構築(学習支援クラウドサービス) ・教職員及び生徒等の緊急連絡体制を確保する。(阜メール)	ア・学校説明会 理解度 90% 以上を維持 [99.5%] イ・Webページ更新 200回以上を維持 [194回] ウ・緊急連絡体制の整備状況 100% [100%] 阜メール配信 90件以上	ア. 第1回学校説明会 11/12(土)実施 中学生 366名応募 322名参加 参加者による理解度 99.6% 第2回学校説明会 12/11(土)実施 中学生 188名応募 173名参加。体育館での説明後、部活体験グループ等に分かれ、校内施設見学及び部活動を体験。(◎) イ. Webページ更新による情報発信 阜だより 177件、校長ブログ 66件 その他、学校紹介関連の情報を日々更新しており、243件更新。(◎) ・部顧問が首席にメール送付したり、クラウド掲示板に関連ファイルを添付する等、情報発信のツール収集から受渡、更新作業が組織的に行えた。(◎) ウ. 生徒・保護者への緊急連絡体制は1年保護者が、90.5%の登録状況で、引続き登録を促す。2, 3年生は、昨年度のデータを更新し、緊急連絡体制は100%完備済 (○) ・学習支援クラウドサービスを学年当初に設定し、講座毎に課題を配信・回収、個別に助言する等の生徒向け情報発信を行った。 ・阜メールの配信 34件 (△) ・休日の連絡先(コロナ関連緊急連絡等)に学校代表メールを設置。校外でメール受信後、確認した内容を教職員で共有し、速やかに初動対応を行えた。(○)